

ろうさいニュース



独立行政法人 労働者健康福祉機構
浜松 労災 病院

高齢化社会における運動器疾患治療法の進歩に関する楽観的見解

高齢化社会を受けて、2000年から2010年を運動器の10年とし、ロコモティブシンドロームという疾患概念の提唱等、骨関節疾患に対する啓蒙番組や出版物を目にした

り聞いたたりされた御仁は少なからずおられると察します。当院もこの領域の疾患について深く関与しておりますので、この場を借りて簡単に紹介させていただきます。まず、ロコモティブシンドロームについてかいつまんで申し上げます。四肢、脊椎を脳、心臓等の生命に直接かかわる器官に対比させる暗喩的表現として運動器と呼称し、これがひとたび機能低下に陥ると、さきほど述べた重要臓器に悪影響を及ぼし、果ては寝たきりに至るとというのが本疾患の概念です。動作のための単なる道具と思われていた運動器が実は健康寿命を高めるのに重要な役割を果たしているということなのです。

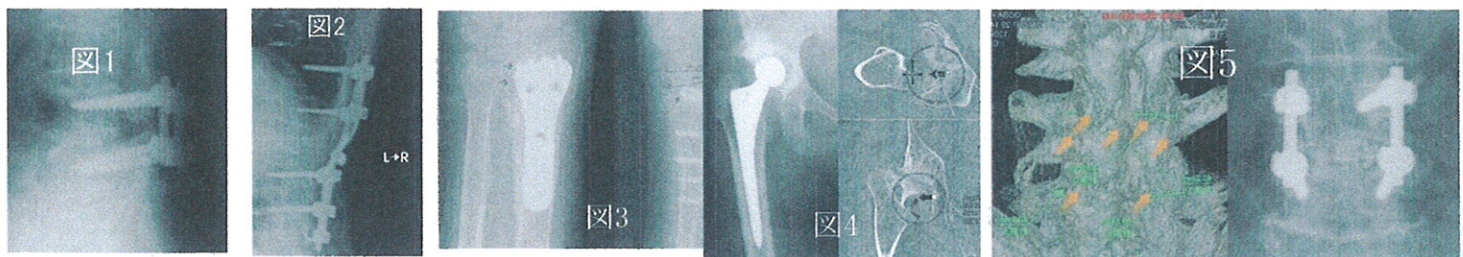
年齢を重ねると筋力、関節可動域ともに低下の傾向にあり、様々な骨関節の変形により関節症、脊椎症の原因になります。骨の質も低下します。骨粗鬆症による骨脆弱性骨折のリスクが高まります。

関節症は股関節、膝関節に多く発症しますが、重症例ともなり歩行が困難になるほどです。人工関節は除痛と関節の安定性温存にすぐれた治療法です。人工関節デザインや材質、手術器具が洗練され、周術期感染コントロール、術中回収血装置、術後患者疼痛コントロール等の進歩により早期歩行、輸血回避、術後除痛、感染リスク低減の面で安定した結果を得られております。

脊椎変形による腰部脊柱管狭窄症は、みのもんだの功績により広く世に知られるようになりました。単なる除圧手術はもちろんのこと、椎弓根スクリュー、椎体間ケージの普及により不安定性のある症例や再手術のため固定せざるを得ない症例に対しても早期離床が可能になりました(図1)。骨脆弱性骨折は高齢者本人に致命的合併症をもたらす危険のある疾病ですが、家人などにとっては社会生活基盤が揺るがされるほどの重大な疾病です。特に大腿骨頸部骨折は

運が悪ければ致命的合併症を併発し(全手術患者の10%)、寝たきりになります。さらに運が悪ければそのまま死に至ります(1年で20%弱)。short femoral nail, sliding hip screw, 人工骨頭等、骨折型に合わせた手術で可能な限り早期の離床を旨としています。どの程度患者QOL向上に役立っているかはこれから評価を待たねばなりません。本年より地域連携パスにも参加しております。また、脊椎骨折も骨脆弱性に起因して生じることがあります。骨折の経過や型により下肢の疼痛や麻痺等が出現して寝たきりのリスクが高まる症例もあります。このような場合、やはり椎弓根スクリューや人工骨や椎弓下テープを利用し、早期より離床が可能になってきました(図2)。本人の意欲と心肺機能がそこそこ維持されていれば十分安全な手術です。橈骨遠位端骨折や上腕骨遠位端骨折等、骨幹端部の骨折は強力な固定性の得られるロッキングプレート法が普及し、成績が安定してきました。(図3)

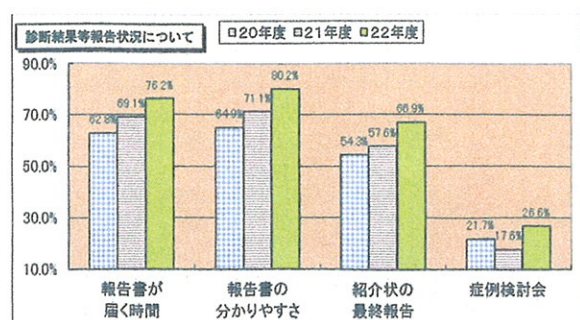
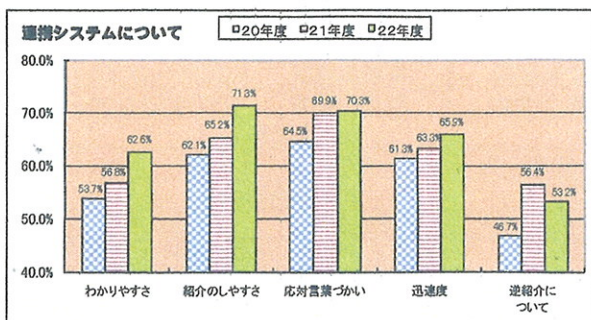
農業、工業技術の進歩により世界中の人々(最貧国においてさえ)の暮らしは50年前に比べて飛躍的に豊かになったのと同様、整形外科領域での進歩も、ここ10年という比較的短い期間においても格段に進歩し、多くの人々に貢献しております。例えばロッキングプレートは10年前はまだ治療の主流ではありませんでした。数年前から64列3D-CTの利用により人工関節や脊椎インストルメンテーションの際、術前シミュレーションがかなり高い精度で可能となっております(図4、5)。こういった技術進歩を背景として基本的修練を積んだ医師であれば旧来に比しより安全確実に実施できる新しい手術法が次々に開発考案されております。数少ない名人しかできない手術というものは多くの患者を救うという点ではよい手術とはいえません。そういう点で“よい”手術が今後も増えてくると期待されます。(整形外科部長 河本正昭)



病診連携サービス満足度実態調査アンケート結果について

地域連携室に対するご意見ご要望について、アンケートのご協力ありがとうございました。以下のとおり検討し、対応することいたしました。

- 1) 紹介状原本を持参していただくようお願いしておりますが、FAXのみでも対応いたします、患者さんからの予約も受け付けます。
- 2) ご紹介をいただいた患者さんについては、併診が必要であれば、その日のうちに他科に紹介するようにしております。ただし診療科がない場合には他院を紹介することもあります。
- 3) 転科、退院の情報提供書についてはチェック、督促を行い、スムーズにお返事ができるよう徹底いたします。情報が届いていないことがありましたら、連携室にご連絡いただければ早急に手配いたします。共同診療にお越しいただきますようスタッフ一同お待ちしております。



■人事異動 (退職) 外科 中山 昇 眼科 小出 健郎

診療科からのお知らせ 眼科：3月は休診とさせていただきます。